

2023年10月19日(木)

老球の細道757号

休日の大会観戦散策&感想

会津バスケットボール協会 室井 富仁

先週の連休において、わが会津地区ではミニ(U-12)の磐越道沿線招待大会、中学(U-14)のジュニアウインターカップ会津地区予選会、そして社会人県選手権大会の3つのカテゴリーにおいて大会が開催された。

今日用(教養)と今日行く(教育)を生きる目標に掲げる私は、腰のリハビリも兼ねながら二日間の連休をゲーム観戦で楽しんだ。残念ながら社会人大会の方まで足を向けるスタミナはまだ回復していなかったため、ミニ、中学の試合観戦で満足した。

U-14地区予選会の観戦においては、それぞれのチームがどのようなオフェンス、ディフェンスコンセプト下でチーム創りがなされているかを重点的に見た。また、ゲーム前の練習やハーフタイム練習などにおいての規律の文化(切り換え、コミュニケーション、プレイの正確さ)も関心の的だった。「日常を世界基準に」、高い目標はチームのレベルとなる。

ところで、聞くところによると、U-15ウインターカップ大会は合計3回の予選があるという。3年生のいない新人チームだけのU-14地区予選、県大会。3回目にU-14県大会で優勝したチームとクラブチーム、ボンズユースチームが混ざったU-15県大会最終ラウンドが行われ全国大会出場を決定する。しかし、いつも腑に落ちないことが2つある。

*クラブチームには3年生が存在するが、中学チームには存在しない。3年生でもクラブチームに所属しない選手はなぜ出場できないのだろうか。「U-14」と銘を打っているからか。U-14(新人大会)は冬にもある。あくまでも「U-15ウインターカップ」の予選なのでは。
*地区大会からクラブチームも参加し、地区予選を勝ち抜いたチームで県大会を行えば2回で大会運営が終わることができる。教員の多忙化解消に役立つのではないだろうか。

一方、ミニバスケットボールのゲームは、あいかわらずオールコートプレスディフェンスに対応できるか否かで勝敗が左右するゲームが多かった。特にダブルチームのルールが緩和されたので、スローインから即ダブルチームをしかけるパターンが多くなった。ミニのレベルのみならず、あらゆるカテゴリーにおいてこのようなプレスディフェンスに対応できないチームはボール運びがままならず悲惨な結果が待っている。

このオールコートプレスディフェンスを突破するためには、鬼ごっこのような追いかけっこから振り切る力、振り切られない力が土台となり、パス、ドリブル、ピボットなどの正しいファンダメンタルスキルと状況判断が必要になる。

バスケットボールの状況判断は複雑である。判断基準に相対的なものがあるためである。自分とゴールの間にDEFがいるか否かは絶対的な基準であるが、味方はどこにいるか、相手が自分よりスピードがあるか、自分より上手であるか等という相対的な基準まで認識するのはミニ、初心者レベルではかなりハードルが高い。が、必ず克服しなければならない。

ミニの熱気を、中学でさらにふいごをかけて熱くする必要性を感じた休日観戦だった。